

この添付文書は、本剤の使用前に必ずお読みください。
また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

コトフ MD 軟膏

第2類医薬品 湿疹・皮膚炎の治療薬 合成副腎皮質ホルモン配合 外皮用薬

湿疹・皮膚炎は異物の刺激やアレルギー反応などによって皮膚が炎症を起こし、多くの場合、患部が赤くはれ、ブツブツができ、かゆみを伴います。コトフ MD は、主成分プレドニゾロン(合成副腎皮質ホルモン)とグリチルレチン酸(抗炎症成分)がやさしく作用して、湿疹・皮膚炎などの炎症を鎮めます。赤ちゃんの薄くて薬剤の浸透しやすい皮膚にもお使いいただける軟膏タイプの外用剤です。

⚠ 使用上の注意

⊗ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなります)

1. 次の人は使用しないでください。

本剤又は本剤の成分、クロルヘキシジンによりアレルギー症状を起こしたことがある人。

2. 次の部位には使用しないでください。

水痘(水ぼうそう)、みずむし・たむし等又は化膿している患部。

3. 顔面には、広範囲に使用しないでください。

4. 長期連用しないでください。



相談すること

1. 次の人は使用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

- (1) 医師の治療を受けている人。
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
- (3) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
- (4) 患部が広範囲の人。
- (5) 湿潤やただれのひどい人。

2. 使用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに使用を中止し、この添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ、はれ、かぶれ、乾燥感、刺激感、熱感、ヒリヒリ感
皮膚(患部)	みずむし・たむし等の白癬、にきび、化膿症状、持続的な刺激感

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診察を受けてください。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	使用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。

3.5~6日間使用しても症状がよくなる場合は使用を中止し、この添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

効能 湿疹、皮膚炎、かぶれ、かゆみ、虫さされ、あせも、じんましん、しもやけ

用法・用量 1日1~4回、適量を患部に塗布してください。

<用法・用量に関連する注意>

- (1) 用法・用量を厳守してください。
- (2) 小児に使用させる場合には、保護者の指導監督のもとに使用させてください。
- (3) 目に入らないように注意してください。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗ってください。
なお、症状が重い場合には、眼科医の診察を受けてください。
- (4) 外用にのみ使用してください。

成分(1g中)

成分	含量	はたらき
プレドニゾロン(合成副腎皮質ホルモン)	2.5mg	皮膚の炎症・はれを抑えます
グリチルレチン酸	5mg	皮膚の炎症・はれを抑えます
クロタミトン	50mg	不快なかゆみを抑えます
ジブカイン	2.5mg	不快なかゆみ・痛みを抑えます
クロルヘキシジン塩酸塩	2.5mg	患部を殺菌します

添加物:ステアリン酸ソルビタン、ステアリン酸、ミリスチン酸イソプロピル、スクワラン、パラフィン、ワセリン

保管及び取扱い上の注意

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に密栓して保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- (4) 使用期限を過ぎた製品は使用しないでください。



製造販売元
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

ホームページ www.mt-pharma.co.jp

本品のお問い合わせは、お買い求めのお店
又は下記にお願いいたします。
田辺三菱製薬「くすり相談センター」
(フリーダイヤル ☎ 0120-54-7080)
受付時間: 弊社営業日の9:00~17:30

副作用被害救済制度のお問い合わせ先
(独) 医薬品医療機器総合機構
http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html
電話 0120-149-931 (フリーダイヤル)

コートf[®] MD 軟膏

第2類医薬品

湿疹・皮膚炎の治療薬 合成副腎皮質ホルモン配合 外皮用薬

正しく知って、 正しく治す。

湿疹・皮膚炎などの皮膚トラブルは、皮膚で炎症が起こり、赤み、はれ、かゆみなどが症状としてあらわれます。かゆみの症状が強い時には、我慢できずについかいてしまいますが、かくことが刺激となってさらに炎症が強まり、ますますかゆくなるという悪循環に陥ってしまいます。皮膚トラブルに気づいたら、すぐにしっかりとした治療を行うことが大切です。

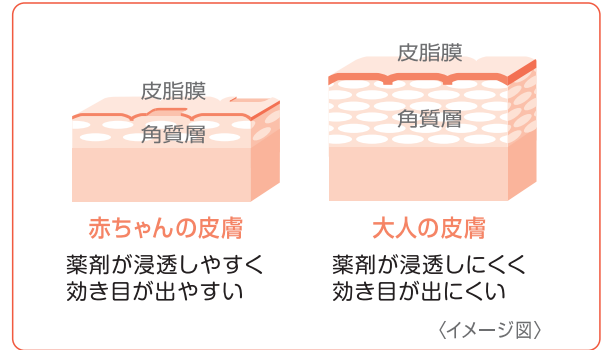


効き目がやさしい外用ステロイド・プレドニゾン配合

湿疹・皮膚炎の手当ては、主に年齢によって異なる皮膚のバリア機能に合わせて十分な効き目の薬剤を選ぶことが大切です。大人の皮膚の薄い部位や角質層が未発達で皮脂分泌が少ない赤ちゃんは、皮膚のバリア機能が弱く、薬剤が浸透しやすくなっていますので、作用がやさしい外用ステロイドでも十分な抗炎症作用が期待できます。

コートf MD は効き目がやさしい外用ステロイド・プレドニゾンを配合しており、大人の皮膚の薄い部位や赤ちゃんの薄い皮膚にできたかぶれ、あせも、かゆみに適しています。

※コートf シリーズには有効成分の違いにより抗炎症作用の異なる製品があります。



ステロイド外用剤（合成副腎皮質ホルモン配合外用剤）について

ステロイド外用剤とは

体内でつくられるホルモンのひとつである副腎皮質ホルモンは、からだの中で起こる炎症を抑えるはたらきがあります。その副腎皮質ホルモンの構造に改良を加え、抗炎症作用を強化したものが合成副腎皮質ホルモンです。そのうち外皮用として用いられる成分を外用ステロイドと呼び、外皮用として製剤化したものがステロイド外用剤です。赤み、はれ、かゆみなどの症状を抑えるだけでなく、炎症が起こるのを抑えるはたらきがあります。

強さのランクについて

外用ステロイドを配合したコートfシリーズには抗炎症作用の強さと有効成分の種類に違いのある3種の製品があります。コートf MDに配合の外用ステロイド・プレドニゾンは弱いタイプになります。

弱 強

副作用について

合成副腎皮質ホルモンは内服剤として多くの炎症性疾患に使われてきましたが、副腎機能の抑制などの全身性副作用がしばしば問題になってきました。そのため、全身への影響が少なくなるように開発されたのがステロイド外用剤です。ステロイド外用剤の副作用としては、長期連用した場合に皮膚が薄くなったり、皮膚の血管が拡張したりすることがあります。また、水虫などの感染をおこしている部位に使うと症状が悪化することがあります。本剤は裏面の使用上の注意をよく読んで正しく使いましょう。

弊社では皮膚トラブルを正しく知って正しく治す、「湿疹・かぶれ・かゆみを考えるヒフノコトサイト」を開設しています。

<http://www.hifunokoto.jp>

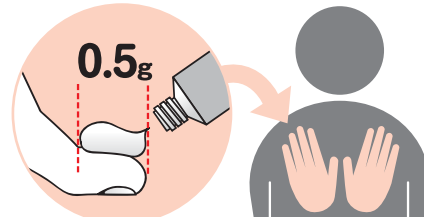
セルフメディケーションにおけるステロイド外用剤の正しい使用方法

- 患部に適量^{*}を、通常は1日2回、症状が重い場合は1日3回程度塗ってください。
- 症状がよくなってきたら、回数を減らしながらお使いください。

※ 適量とは？

使用量の目安「フィンガーチップユニット」

チューブから、大人の人差し指の第一関節の長さくらい(約0.5g)を出した場合、大人の手ひら2枚くらいの広さに伸ばして塗ります。これを目安として、患部の広さと比較して使用量を決めます。



大人の手ひら2枚くらいの広さに伸ばします。

- ✓ 1週間を超えて使用しないでください。
- ✓ 5～6日間使用しても改善しない、あるいは悪化した場合は、他の原因によるものか、セルフメディケーションの範囲を超えていることが考えられますので、使用を中止して医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
- ✓ 患部が**使用する人の手のひら2～3枚**を超える広範囲の場合は、セルフメディケーションの範囲を超えていることも考えられますので、使用する前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
(赤ちゃんに塗る場合は赤ちゃんの手のひら2～3枚)